高等学校外国語科学習指導案（第１稿）

日　時　令和５年 11 月 16 日(木)
　　第４校時 11:50～12：40
対　象　1 年 3,4 組（26 名）
学校名　北海道留萌高等学校
授業者　教諭　松　田　康　扶
場　所　本校 101 教室

1　単元名
Lesson 7 Dear World;Bana’s War
Lesson 8 The Best Education to Everyone, Everywhere
教科書：Landmark FIT English Communication Ⅰ

2　単元の目標と評価規準
⑴　単元の目標
本文や、テーマに関するスピーチの内容を基に、社会をよくする発明品や活動を考え、聞き手にとってわかりやすく発表することができる。
⑵　単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	【知識】 やりとりに必要な語彙・表現を使用できる 【技能】 聞き手に自分の考えをよく理解してもらうために、抑揚やスピードなどを意識しながら発表することができる。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように，自分が考えた発明品や活動についての情報や考えを，聞いたり読んだりしたことを基に，理由とともに話して伝えている。	聞き手に自分の考えをよく理解してもらえるように，自分が考えた発明品や活動についての情報や考えを，聞いたり読んだりしたことを基に，理由とともに話して伝えようとしている。

3　指導にあたって
⑴　教材観
生徒にとって身近に感じやすい話題から、社会的な話題まで用意されており、単元ごとに様々な言語活動を行うことが出来る教材である。コンテンツについては「読む」能力にフォーカスされているため、４技能のバランスについて考慮し、現在は独自にハンドアウトを作成し、指導している。 単語数が少なく、難易度は決して高くはない教材のため、習熟度の高い生徒にとってはすぐに読解が終わってしまい、学力の伸長という観点では別途レベルの高い教材を与える必要がある。しかし、本校は生徒の学力の幅が大きいため、全生徒の学力を考慮すると、本校の実情に適した教材と言える。
⑵　生徒観
本校は進路多様校である。様々な学力の生徒がおり、全国模試や英語検定で好成績を収める生徒もいれば、中学校での既習事項の学びなおしを要する生徒も少なくない。純朴で素直な生徒が多く、何事も一生懸命取り組む生徒が非常に多い。
本校の生徒の課題は、学習を主体的に行うことができる生徒が非常に少ないことである。そのため、英語の授業では様々なジャンルのトピックを取り扱うことから、学習を通じて何事にも興味を持ち、主体的に自分の意見を考え、発信できる生徒を３年間かけて育てたいと考えている。

⑶　指導観
(2)で述べたように、様々な学力の生徒がいることから、習熟度別に授業を展開し、それぞれのクラスで生徒の実態に合わせた指導を行っている。

４　指導と評価の計画（計２４時間）

時間	ねらい（■），言語活動等（丸数字）	評価の観点			備考
		知	思	態	
8（1～8）	Lesson 7 Dear World; Bana's War ■ 読解を通じて、Bana が自分の直面している課題に対し、インターネットを活用してどのように乗り越えたかを理解する。 ① ペアで本文の内容に関し、短いやりとり(”Small Talk”)を行う【帯活動】 ② 読解問題を通じて、本文の概要を理解する、 ③ 音読や Reproduction を通じて、本文を詳しく理解する。 ④ Summary を完成させる。	一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。			
1（9）	■ Bana が実際に投稿したメッセージを読み、Bana が置かれた状況や戦争の悲惨さについて理解する。 ① Bana が実際に投稿したメッセージを読み、簡単なリーディング問題に答える。 ② Bana が投稿したメッセージを再度読み、印象に残っ た投稿を Google Jamboard に投稿する。 ③ 教員より、次回の Lesson で行う内容、パフォーマンステストについて簡単に説明する。				
8（10～17）	Lesson 8 The Best Education to Everyone, Everywhere ■ 読解を通じて、２人の大学生が発展途上国の子ども達が直面している課題に対し、どのような発明品を製作したか、その結果はどうなったかを理解する。 ① ペアで本文の内容に関し、短いやりとり(”Small Talk”)を行う【帯活動】 ② 読解問題を通じて、本文の概要を理解する、 ③ 音読や Reproduction を通じて、本文を詳しく理解する。 ④ Summary を完成させる。				
1（18）	■Ted Talks を視聴し、本文に登場した人物と同じく、世の中をよくする発明や運動をした人を知り、その後のパフォーマンステストに活用する。 ① ペアになり、それぞれ別な２種類の動画を見て、その内容をワークシートにまとめる。（生徒はイヤホンを使って、各自のタブレット端末から視聴する。） ② 残り１０分になったところで、ペアでワークシートを交換し、その内容を確認する。				
4（19～22）	■ パフォーマンステスト作品の作成				

1 (2 3)	■ パフォーマンステストを実施する前に生徒同士で発表しあい、それを通じて他人の良い点を取り入れたり、自分の発表の印象を確認する。 ① ３～４人グループになり、順番に発表を行う。発表を聞いている生徒は、ワークシートにその内容をメモする。 ② 全員の発表終了後、自分以外の１人を選び、その内容を紹介する文章を英語で書く。 また、他者からの評価を基に、パフォーマンステストではさらに良いものができるように努める。				一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて指導に生かすことは毎時間行う。
1 (2 4)	パフォーマンステスト	○	○	○	

5　パフォーマンステストの実施計画

領　　域	□　話すこと［やり取り］　■　話すこと［発表］　□書くこと
関連する Can-Do リスト	第１学年 日常的、社会的な話題について基本的な語句や文を用いて、自分の意見や気持ちを整理し、簡潔に伝えることができる。
実施内容	Lesson7、Lesson8 で登場した人物のように、世の中をよりよくするような発明品若しくは運動を考え、それを発表する。
実施方法	１．本文内容を見直したり、Ted Talks で実際に行われた運動や発明に関するスピーチを視聴し、アイデアを考える。（個人で行う） ２．パフォーマンステスト実施の前に、生徒同士で共有する時間を設け、アイデアを広げたり、他者の良いところを参考にするための時間を設ける。。 ３．後日、JTE もしくは ALT と１対１でテストを行う。

■　採点の基準

○　「思考・判断・表現」についての３つの条件

条件１：商品や運動の内容を明確に説明している。 条件２：なぜその商品や運動が必要かを明確に説明している。 条件３：その商品や運動によって、たくさんの人の日常生活がよりよくなることが想像できる。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	語彙や表現が適切に使用されている。 はっきりと話され、時には抑揚や間を使い、聞き手にわかりやすく伝える工夫ができている。	三つの条件を満たし、更にイラストやスライドを効果的に使い、わかりやすく説明できている。	三つの条件を満たし、更にイラストやスライドを効果的に使い、わかりやすく説明しようとしている。
b	・多少の誤りはあるが，理解に支障のない程度の語彙や表現を使って話して伝えている。 ・スピードが速い、声が小さいなど、時折理解に支障をきたす部分があるが、概ね内容を理解できる。	三つの条件を満たし、伝えている。	三つの条件を満たし、伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

６　本時の展開（２３／２４時間目）

⑴　ねらい：パフォーマンステストを実施する前に生徒同士で発表しあい、それを通じて他人の良い点を取り入れたり、自分の発表の印象を確認できる。

⑵　展開

<table>
<tr><th>過程</th><th>学習内容</th><th>生徒の学習活動</th><th>指導上の留意点</th></tr>
<tr><td>導入</td><td>帯活動
Small Talk</td><td>２人ペアになり、本文に関する簡単な英会話を行う。</td><td>活動終了後、即興で答えることができなかった質問の答えを振り返る時間を設ける。</td></tr>
<tr><td rowspan="5">展開</td><td colspan="3">【ねらい】自分が調べた情報（社会をよくする発明品・運動）をポスターもしくはGoogle スライドにまとめ、それをもとに話せるようになる。</td></tr>
<tr><td>情報収集
整理・分析
まとめ・発表</td><td>・ランダムに４人グループを作り、自分が作成した発明品・運動をもとにグループ内で説明を行う

・発表を聴き、友人が紹介する情報についてメモをとる。また、発表者の良いところと改善点を評価用紙に記入し、発表者に手渡す。</td><td>・活動に入る前に、以下の２点を説明する
①　発表者の長所と、こうしたら良くなる点を最低１つずつ書くこと。
②　発表を聞いているときに取ったメモを用いて、後ほど Writing 活動を行うこと。</td></tr>
<tr><td colspan="3">【ねらい】聞き取った情報を整理し、要点を説明できる文章を書けるようになる。</td></tr>
<tr><td>要約作成</td><td>・自分の席に戻り、グループで一緒だった他の３人の中から１人選び、そのスピーチの内容を紹介する文章を書く。</td><td></td></tr>
<tr><td>まとめ</td><td>振り返り</td><td>・ワークシートを回収する。
・次回のスピーチテストに向けて、受け取った評価用紙を基に、改善するよう伝える。</td><td>・ルーブリックを再提示する。</td></tr>
</table>